

郡下一齊に ラヂオ体操

開かれるが仙臺放送局はこの運動方法を正確に指導する爲め来る二十一日午前九時から平第三校庭で磐中下山田、磐永島の兩教諭を講師に委嘱各會場の指導者約百名の指導者講習會を開くと

大麥の格付

受検制度新設

石城米穀受検組合は本年から穀物検査所と協力して新

らたに大麥の検査を実施し

て共同販賣を行ふことにな

つたがこれは本郡の大麥は

例年二萬俵近い収穫あるが

受検制度による格付がない

ので他郡に比して四五十錢

安く取引されて居る状態な

ので本年からは穀物検査所

で検査を行ひ品種に等級を

付けて郡産大麥の價格向上

に努めることになつたもの

である、尙本年度郡下の大

麥は悪天候にたゞられて一

萬五千俵位を豫想されて居

る

入替信號

一本を増設

平驛東部構内には從來列車

の安全を圖る入替信號機が

十本設置されてあつたが今

回更に二本を増設して列車

入替の安全強化を圖ること

になつた

ラヂオ体操の會

は今年も例年の八月一日から二十

如く夏休みの八月一日から二十

は今年も例年の八月一日から二十

は今年も例年の八月一日から二十

は今年も例年の八月一日から二十

は今年も例年の八月一日から二十

の平第一校の一學期學力考

查は都合に依り延期明十六

日から行ふと

第四回の 蟻取競技

長橋町

新報社は來月一日第四回へ

イ取競技大會を催すが捕獲

者は抽籤の上一等五圓一名

外夫々賞品を呈すと

泉が優勝榮ある視學杯及び

優勝カップを獲得した

泉 110501210-3

鐵道チームが

既報郡ト大會に優勝した平

鐵道グズブは來る十八、九

の兩日福島市に開催される

縣體育協會主催郡市對抗軟

式野球大會に出場第一回戦

に須賀川チームと對戰する

事になつたがベストメンバ

は左の如くである

弘木山野邊致正島藤

佐鈴船荻山佐佐片齋

藤(球)石坂、熊の三氏審判

試合は既報の如く昨日午後

三時半から平第一校庭で佐

藤(球)石坂、熊の三氏審判

の下に泉先政で開始された

大會決勝戰小名濱對泉校の

試合は既報の如く昨日午後

三時半から平第一校庭で佐

藤(球)石坂、熊の三氏審判

の下に泉先政で開始された

鐵道規定改正

東鐵

管内の鐵道廣告取扱規定が

改正されたので來る廿一日

午前十時から平鐵道會議所

に平勝田間、平小川間及平

機關庫検査所員等參集改正

規定説明會を開くと

に平勝田間、平小川間及平

機關庫検査所員等參集改正

店花造屋本橋

神佛具 價廉 迅速



番一六三電

町川新町平



僅かの氷で非常に早くよく冷える
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷蔵器
今年は外壁の絶縁装置を特に
完全に改良を加へましたので
より一層僅かの氷で非常によく冷える様になりました。
部の構造にも一大改良を加へました。
便利になりました爲に貯蔵さ
れる期間も延長されました。

製品の爲め良品を廉価に御提供する事が出来ます。

また排水が良くすべて
く冷える様になりました。

便利になりました爲に貯蔵さ
れる期間も延長されました。

製品の爲め良品を廉価に御提供する事が出来ます。

また排水が良くすべて
く冷える様になりました。

便利になりました爲に貯蔵さ
れる期間も延長されました。

製品の爲め良品を廉価に御提供する事が出来ます。

また排水が良くすべて
く冷える様になりました。

便利になりました爲に貯蔵さ
れる期間も延長されました。

製品の爲め良品を廉価に御提供する事が出来ます。

山が崩れ景氣の波に

躍進る怪人物召喚

巧みに一万餘圓を詐取

礦區の圖面を持ち廻り

巧みに一万餘圓を詐取

柴田健吉氏から千四百圓を

出資させ、次いで同年十一

月には同様手段で植田町五

十嵐金彌氏から千四百圓を

仙臺市東二番町佐藤喜之助

同三右門の兩名から七千圓

をまんまと引出し、更に本

木徳一氏から百五十圓を出

資させたがその後何れも

年五月には内郷村御臺境鉛

をまんまと引出し、更に本

木徳一氏から百五十圓を出

資させたがその後何れも

植田町

魚市場

廿七日頃開場

植田町魚市場は合資組織で

竣工来る廿七、八日頃から

開場の豫定である、同市場

の役員左の通り

(社長)志賀要三郎(取締

役)小野晋平 山崎登

馬上守一 秋山市造

磐崎校へ寄贈 磐崎

村若松太郎 大田原憲太

郎氏外村内有志は同村第一

小学校兒童文庫へ兒童百科

大辭典三十冊並に小學校へ

兒童用雨傘四百本を寄贈す

ることになりこの程村内父

兄有承から寄附募集を開始

した

遞信修養出席 平郵

便局は來月九日から十一日

迄の三日間仙臺遞信局主催

で左記四ヶ所に開催される

現業員修養講習會に男女吏

員十七名を派遣することになつた

縣下小學校幹部二名 新潟

渡小學校幹部二名 佐

縣下小學校幹部二名 新潟

渡小學校幹部二名 佐

軽爆機に故障

四倉海岸に不時着

昨十三日午后四時半頃四倉

町上空を飛行中の濱松飛行

學校三輪軍曹操縦、石井曹

長同乗の輕爆機は濱松へ歸

校の途中機體に故障を生じ

て四倉海岸に不時着したが

機體塔乗者共無事なので今

十五日解體輸送をした

百姓を嫌ふ

十二才を頭に六人の子女を

連れて行方を晦ました爲め

八方捜査中の處長女と次女

は既に郷里近くに藝妓に賣

られて居り三女のみさ子

(二)らしいのが偽名で平地

方面に來て形跡ありますと

が嫌さに十一日無斷家出平

方に歸して稼いでゐると風

の便りで判つたので居所を

忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ

のであると

去る十三日半署へ親の知ら

ぬ間に娘が苦界に身を沈め

て居りますから探して下さ

いと願ひ出た男があつたが右は田村郡山根村々長

佐藤康治氏方雇人務川開

(九)で務川は昨年迄郷里の妻ゆき(四)が夫の眼

を忍び數名の仇し男をつく

つた揚句情夫の一人に瞞さ



(後上院題) 丸尾・至陽(作)

百七十一 駆つけた二騎

天野八郎は土井伊織と共に山内を巡視して根岸に来た時にドドーンと響き渡るさまじき音

八「これ土井、あれは砲聲だな」

伊「左様本郷臺の方に聞きましたが、さしはいよ」

官軍は押して参りましたか

八「急げ」

とトツ／＼水玉を蹴上げて谷中の天王寺前まで来るもドドーンと又も砲聲ひゞきわたつたがビューンと風を切つて飛び来る丸、バラ／＼バラ／＼と木の葉が散つた、いよいよ官軍押よせたりと天野に土井は山内指して駆け集つた、する

とこの時官軍の先鋒はお成街道より廣小路まで押しよせてゐる、その數およそ二千、時は慶應四年五月十五日の拂曉、篠を束ねて投ぐるが如き大雨をおかしてお成り街道より廣小路に進み折しも南の方より馬を飛ばして駆来る武士兩人

武「戦闘をひらくはしばらく待たれよ、これは静寛院の宮様及び天璋院様よ」

甲「吾々共は静寛院様のおなれにござる」

とした、兩使はこれより徐々と馬をうなせて黒門へ参つたが

甲「當所をかため居らるゝは何人か、隊長は何んと申されると問ふた

○「酒井宰助にござる、し

て各々は何用あつてお出でになれた

申し傳へむためまかり越し

の仰せの赴きを大隅守殿に

たぞ、かくとも各々の門に

申し傳へむためまかり越し

の仰せの赴きを大隅守殿に